九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Outcome of Renal Transplantation in Patients with Type 2 Diabetic Nephropathy : A Single-center Experience

野口, 浩司

https://doi.org/10.15017/1500599

出版情報：九州大学, 2014, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏　　名：野口　浩司

論文題名：
Outcome of Renal Transplantation in Patients with Type 2 Diabetic Nephropathy
: A Single-center Experience
（2型糖尿病性腎症患者における腎移植の成績：単一施設での経験）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

【背景】腎移植は糖尿病性腎症による末期腎不全のための治療として確立している。しかし、2型糖尿病性腎症による末期腎不全における腎移植後の成績に関する研究はほとんどない。2型糖尿病性腎症による末期腎不全における腎移植の有用性を検討するため、我々は当科で実施した腎移植患者を対象として後方視的に解析し、2型糖尿病性腎症と非糖尿病性腎症に対する腎移植後の成績を比較検討した。
【方法】2008年2月から2013年3月までに当施設で生体腎移植を施行した2型糖尿病性腎症患者（DM群）65名と非糖尿病性腎症患者（NDM群）225名の計290名の成人患者を対象とした。これら二群を後方視的に比較検討した。
【結果】DM群とNDM群の5年累積生存率はそれぞれ96.6% vs. 98.7%、5年累積生着率はそれぞれ96.8% vs. 98.0%であり両群間に有意差を認めなかった。外科的合併症・拒絶反応・感染症の発生率も有意差を認めなかった。術後心血管系合併症の累積発症率はNDM群よりもDM群で有意に高かった（5年累積発症率 8.5% vs. 0.49%; P=0.002）。
【結論】2型糖尿病性腎症に対する腎移植後の生存・生着率は非糖尿病性腎症に対するものと比較して遜色がない。糖尿病性腎症患者の透析導入後の予後が不良であることを考慮すると、これらの患者に対し腎移植を行うことは有意義である。